

中部教育事務所「地域とともにある学校づくり」推進フォーラム（7月11日）

檜葉町地域学校協働センター長檜葉町教育委員会指導主事・猿渡 智衛氏を講師に招き、講演と演習を実施しました。当日は、112名の関係者が参加し、後半の演習では活発な情報交流がなされました。

<講演の内容から>



さるわたり ともえ
猿渡 智衛 氏

- ・「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進」を図ることで、教育活動が充実すること。
- ・「地域学校協働活動として成立させる」ためには、「どんな活動をするか」ではなく、「何のためにするか」がポイントとなること。
- ・地域は、未来の地域の担い手である、子どもたちが生活や社会について、体験的・探究的に学習できる場であること。
- ・コミュニティ・スクールや地域学校協働活動に、地域住民が参加することで、住民意識の高揚や連帯感の醸成等につながり、効果的に地域づくりを推進できること。
(檜葉町では、こども園と小中学校の運営に保護者や地域住民が参画する仕組みを整備した。)

参加者の感想（一部抜粋）

・「子どもの教育は学校がすべきもの」という意識は保護者からも感じることがあるので、意識を変えられるような働きかけができるかと思った。何のために活動するのかを意識して、今後進めていきたい。

・地域学校協働活動をどのように進めていけば、地域を担う子どもたちに力をつけていけるのか、具体的なイメージを持つことができた。先進的に取り組んでいる学校の事例も参考にしたが、自校の体制を改めて確認しようと思った。

・新しいことをしていくというよりは、これまで進めてきた教育振興運動の活動とタイアップして（メンバー構成もほぼ同じなので）リメイクしながらやっていくということでもいいのかなと感じた。

・今年度から地域コーディネーターを始めた。今回のフォーラムの講演や情報交換で、ハードルを下げ、自分のやれること・できること・プロフェッショナルでなくてもいいのだと感じることができた。

3つの会場に分かれ、情報交換をする参加者の様子



本通信は下記ホームページに掲載しています。（※ダウンロード可能）
岩手県生涯学習情報提供システム「まなびネットいわて」
<https://manabinet.pref.iwate.jp>



「まなびネットいわて」には、文部科学省が作成したパンフレットや全国の事例紹介があります。また、岩手県が作成した資料や県内の事例等の紹介もあります。ぜひ、ご覧ください。